

日本大学法学部

国際政治経済特殊講義（地球環境ガバナンス A）

2015年4月15日

阪口 功（学習院大学）

1. 授業目的

急激な温暖化や生物多様性の喪失に見られるように、地球環境は悪化の一途を辿っています。中央政府が存在しない国際社会において、地球環境の悪化を食い止め、問題解決の糸口を見つけていくという極めて実践的で困難な課題に取り組むのがこの授業の目的です。この課題に取り組むために、地球環境問題の特性、地球公共財の供給問題、国家の行動、国際機関の取り組み、私的アクター（NGO、企業）の役割など、基礎的な知識を習得していきます。

2. 授業到達目標

地球環境ガバナンスについての基礎的な知識を習得することで、2学期で取り扱う気候変動、生物多様性、海洋汚染などの個別事例について、問題解決を妨げている要因と解決のための処方箋を検討していくための基盤を提供する。

3. 履修条件

地球環境問題について学びたいだけでなく、自分にも何かできることはないかと考えられる学生であること。

4. 授業方法

- ・ 講義形式で実施し、必要に応じて適宜映像資料を用います。
- ・ レジメなど授業配付資料は以下の研究室 HP を通じて配布する。各自授業前に印刷・持ち込みすること。なお、PDF ファイルのパスワードは授業にてお知らせします。
- ・ 補講の補充授業については欠席者も視聴できるように音声ファイルをアップします。

※ 阪口研究室 HP: <http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20050137/index.html>

5. 準備学習

授業内容を的確に理解するために、いずれかの教科書を入手し、予め目を通しておくことを推奨します。ただし、教科書をなぞる授業ではないため、しっかりと授業に出ることが、単位取得のための事実上の必要条件となります。

6. 評価方法

- ・ 出席(20%)、授業内で実施するミニテスト(60%)、エッセイ課題(20%)により総合評価する。
授業での積極的な発言は加点要素として評価される。
- ・ 授業内テスト、映像資料視聴をやむを得ない理由で欠席する学生は事前に相談すること。

7. 教科書・参考書

- ・ (教) ガレス・ポーターほか『入門地球環境政治』有斐閣、1998年。
- ・ (教) 亀山康子『地球環境政策』昭和堂、2010年。
- ・ (参) ジェニファー・クラップほか『地球環境の政治経済学』法律文化社、2008年。

8. 連絡方法

- ・ 電子メール：isao.sakaguchi@gakushuin.ac.jp (*は@に置き換え)
- ・ TEL (学習院大学法学部・阪口研究室)：03-3986-0221/0225 内 4820
- ・ 学習院大学法学部共同研究室 内線 4800, 4801, 4803 (研究室不在時の伝言)
- ・ 休講などの通知は日本大学法学部 HP と研究室 HP で行う。

9. 講義スケジュール

- (1) 4月15日：講義ガイダンス
- (2) 4月22日：地球環境問題とは？
- (3) 5月06日：地球環境ガバナンスと地球公共財：コモンズの悲劇？
- (4) 5月13日：地球環境ガバナンスと地球公共財（続き）
- (5) 5月20日：授業内テスト1回目(予定)
+地球環境ガバナンスと国家：各国の利害の対立と調和を理解する
- (6) 5月27日：地球環境ガバナンスとNGO：市民の利益の代弁者？
- (7) 6月03日：休講
- (8) 6月10日：地球環境ガバナンスとNGO
- (9) 6月17日：授業内テスト2回目(予定)
+地球環境ガバナンスと企業：企業の長期的な利益を理解する
- (10) 6月24日：地球環境ガバナンスと国際機関：重層的なガバナンス構造を理解する
- (11) 7月01日：休講
- (12) 7月08日：地球環境政治の歴史的展開
- (13) 7月15日：+地球環境ガバナンスと文化：捕鯨・イルカ問題を通じて
- (14) 7月22日：授業内テスト3回目(予定)
- (15) 7月23日1-2限：映像資料視聴 ※ 補講